



# 軽防協ニュース速報

## 2014年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2014 年第 1 四半期の報告を記載する。その後、その他の国の 2014 年第 2 四半期の報告を通常の形式で記載する。

### オーストラリアの 2014 年第 1 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)による Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ)

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary> を参照

### 州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

### クイーンズランド州

Greg Williamson、農漁林業省、クイーンズランド州による報告

#### バンダバーグにおける馬のヘンドラウイルス

この四半期に、ヘンドラウイルス (HeV) 病調査のため、92 頭の馬の検体がクイーンズランドのバイオセキュリティ科学研究所に提出された。さらに、州間あるいは国際間の移動、種畜場への移動、あるいは疾病が伝染するリスクの高い獣医師の処置が実施される前の臨床的に健康な馬についても HeV を除外するため、さらに 16 の検体が検査に供された。バンダバーグ地域にある施設において、HeV 感染症の 1 事例があった。3 月中旬、5 歳のクォーターホースの繁殖牝馬が最初に食欲不振と発熱 (41°C) を呈した。対症療法にもかかわらず 3 日間以上悪化が続き、呼吸器症状 (頻呼吸)、歯肉の充血を認め、安楽死に至った。死後には泡沫状の鼻漏が認められた。施設にいた馬は HeV に対するワクチン接種を受けていなかった。

同施設および近隣の施設において、感染馬と接触し、感染した可能性があると認められた数頭の犬およびワクチン非接種馬は隔離され、モニタリングおよび検査が実施された。これらの動物は臨床的に健康であり、3回のPCR検査および血清学的検査ではHeV陰性であった。隔離措置は4月中旬に解除された。この四半期に実施された他の全ての調査においてもHeVは陰性であった。

獣医師とオーナーは、例え症状が不明瞭あるいは軽度であったとしてもHeV感染症を考慮し、どんな病気の馬に対しても適切な予防措置をとることが重要である。HeV感染の可能性がある病気の馬に対処する際には、獣医師は適切な感染防御措置（自分自身を守る防御器材を含む）を確実に実施するべきである。また、獣医師はHeV診断の検査結果が出るまでの間、馬のオーナーの安全と動物に対するバイオセキュリティを確実にするために、オーナーらに情報を提供するべきである。

馬のHeV感染症の対処および予防のための獣医師および馬のオーナーへのアドバイスは、[www.biosecurity.qld.gov.au](http://www.biosecurity.qld.gov.au) から入手可能である。

ワクチン接種は、馬におけるHeV感染症の危険性を減らすもっとも効果的な唯一の方法である。馬のオーナーは予防接種について獣医師のアドバイスを求めることが勧められる。

## タスマニア州

Mary Lou Conway、第一次産業・公園・水・環境省、タスマニア州による報告

### ヘンドラウイルスの関与の否定

馬において現在進められているサーベイランスプロジェクトの一部として、7歳のサラブレッド種去勢馬における急性熱病の症例についての調査がホバート南部のジーベストン地区で実施された。サプリメントの給餌と規則的な駆虫を実施していたにもかかわらず、2年前に競走から引退して以来、その馬には慢性的な低成長（ill-thrift）の既往があった。しかしながら馬の状態は、ここ3ヵ月の間にいくぶん改善された。

安楽死される2日前に、馬は軽度の上気道感染症に一致した症状を呈していた。治療にも関わらず馬の状態は悪化した。民間の獣医師による診断により急性の呼吸困難であることがわかり、血液材料の採取後に福祉的根拠に基づいて安楽死処置がとられた。死後には白色泡沫状の鼻漏が確認された。その時点で施設にいた他の3頭の馬は健康であった。

オーストラリア本土から最近導入された馬と接触する機会がなかったことやタスマニアには固有のオオコウモリが生息していないことから、ヘンドラウイルスの危険性は非常に低

いと考えられていた。したがって、主要な異常所見を確認するための限定的な剖検が省の職員によって実施されていた。

肉眼的病理所見として胸膜肺炎と過度の心嚢水が観察された。その他の全ての臓器は肉眼的に正常であった。脈管炎の所見は認められなかった。CSIRO（オーストラリア連邦科学産業研究機構）のオーストラリア動物衛生研究所にて実施されたPCR検査によってヘンドラウイルスは除外された。組織学的に原因不明の壊死性肺胞炎および心筋炎と診断された。病理学的には、ウイルス血症、菌血症あるいはポリエーテル系イオノフォアのような循環毒素と一致していた。その時点で毒性のある植物は見つかっておらず、施設に貯蔵されていた飼料内容物の一覧にモネンシン（最も一般的なポリエーテル系イオノフォア）は含まれていなかった。低成長（Ill-thrift）の既往があったことを考えると、進行中の心臓異常により死がもたらされたものと考えられた。

## ウェスタンオーストラリア州

Jamie Finkelstein, ウェスタンオーストラリア州農業・食品省よる報告

### 神経症状の調査ーヘンドラウイルスの関与の否定

2014年2月、ウェスタンオーストラリア省農業・食品省（DAFWA）は、西キンバリー地域にあるダービーの民間獣医から、血液の混じる鼻漏、筋肉の線維束性攣縮および運動失調といったヘンドラウイルス感染症が疑われる臨床症状を呈している馬の存在について通知を受けた。ヘンドラウイルス感染症は、ウェスタンオーストラリア州ではこれまで発生していない。

ヘンドラウイルス感染症の可能性があると考えられた理由は、

- ・ 当該馬が、前夜には臨床症状を示していなかったが、高熱を呈した後に症状が急速に悪化、横臥し、12時間以内に死に至ったという経過。
- ・ パドックのマンゴーの木および施設における最近のフルーツコウモリの存在等、ヘンドラウイルスに暴露される多くの危険因子が確認されている。

最小限の侵襲で採材が行われ、ヘンドラウイルスの関与を否定するためにオーストラリア連邦科学産業研究機構動物衛生研究所（CSIRO-AAHL）に提出された。結果が確定するまでの間、DAFWAは接触した馬の隔離および施設を検疫下に置く等、いくつかの危険緩和策を実行した。前日までに、馬に接触した可能性のある人も何人かいた。ウェスタンオーストラリア保健省は、研究所からこの馬の結果を待つ間、これらの人々への援助を提供することを通知した。研究所の検査によりヘンドラウイルスは陰性であった。最小限の検体

のみであったため他の病原体に関する検査等は実施されなかった。DAFWA は、ヘンドラウイルス感染症の危険因子および本疾病の侵入の可能性を最小にするために施設において実行することができる方法について馬産業に対して継続して助言を行っている。

#### ニューサウスウェールズ州

報告事項なし

#### ヴィクトリア州

報告事項なし

#### サウスオーストラリア州

報告事項なし

#### ノーザン準州

報告事項なし

### 2014 年第 2 四半期の報告

#### アルゼンチン

ウマヘルペスウイルス (EHV-1) による流産

2014 年 6 月 23 日、サラブレッド繁殖牝馬の EHV-1 による流産の一症例が報告され、確定診断は Castelar (ブエノスアイレス) にある INTA (国立農業技術研究所) のウイルス研究所によってなされた。流産した繁殖雌馬は他の 19 頭の妊娠馬とパドックを共有しており、それらはすべて妊娠期間の最後の 3 か月であったが、更なる流産発生の報告はない。流産の前兆、後遺症あるいは神経症状は観察されなかった。

EHV-1 感染は、株の型別が可能なリアルタイム PCR によって確認され、非神経病原性株 (A2254/N752) であった。

#### オーストラリア

冒頭で述べたように、オーストラリアの 2014 年第 1 四半期の報告を上述した。

#### カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2014 年 4 月 1 日から 2014 年 6 月 30 日の間に、サスカチュワン州の異なる 10 施設において合計 26 頭の EIA 陽性馬が確認された。10 施設のうちの 2 つは、2014 年に疾病調査を実施中の一部であった。10 施設のうち 4 施設は以前も感染が確認されており、そのうち 2 施設は 2011 年、他の 2 施設は 2012 年であった。全ての EIA 感染は、寒天ゲル免疫拡散 (AGID);

Coggins テスト) による血清学的診断によって確認された。

## チリ

報告未着

## デンマーク

腺疫 (*Streptococcus equi*)

第 2 四半期の間に、コペンハーゲン近郊の乗馬施設において 2 件の腺疫の発生が報告された。最初の発生は 4 月末に、最後の発生は 6 月末に報告された。2 施設における発生は 50 ~100 頭の間であり、25%の馬において感染が報告された。菌分離によって確定診断がなされた。

## フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

この四半期にカルヴァドス県、ドゥー県、オルヌ県、バラン県およびタルヌ＝エ＝ガロンヌ県において、EHV-1 による流産の発生が 5 件確認され、1 件はサラブレッド種でその他はフレンチサドルブレッド種であることがわかっている。流産胎仔の臓器あるいは胎盤を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2014 年 5 月 16 日、ヴァンデ県において EHV-1 による神経疾患の発生が確認された。感染馬は、乗馬学校において飼養されていたワクチン未接種の牝馬で、疲労、運動失調および強直等の臨床症状を呈した。血液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

カルヴァドス県、ウール＝エ＝ロワール県、イル＝エ＝ヴィレーヌ県、イゼール県、ロワール＝アトランティック県およびオワーズ県において 9 件の EHV-1 による呼吸器疾患の発生が確認され、そのうち 2 件の発生はフレンチトロッター種、その他 2 件の発生はフレンチサドルブレッド種であった。感染馬は、発熱、鼻漏、咳、呼吸症候群および呼吸困難を含む様々な臨床症状を呈した。鼻咽頭スワブあるいは気管洗浄液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

馬インフルエンザ (EI)

セーヌ＝エ＝マルヌ県において2件の馬インフルエンザの発生が確認され、そのうち1件はオランダから輸入されたシェットランドポニーであった。感染馬は、発熱、鼻漏および咳を含む様々な臨床症状を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

#### 馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

アヴェロン県にある施設の8歳のホルシュタイン種の精液を用いた PCR 検査によって EVA の不顕性感染一例が確認された。

#### ピロプラズマ病

フランスでは依然、風土病である。

#### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

この四半期にカルヴァドス県、エロー県、アンドル＝エ＝ロワール県、ロト県、メーヌ＝エ＝ロワール県、マンシュ県、オルヌ県、タルヌ＝エ＝ガロンヌ県、エソンヌ県およびヴァル＝ド＝マルヌ県において腺疫の発生が13件報告された。3件の発生はフレンチトロッター種が、その他個々の施設ではサラブレッド種、フレンチサドルブレッド種、サドルブレッド種およびアラブ種が含まれていた。感染馬は、リンパ節の腫脹、発熱、鼻漏、咳および疲労を含む様々な臨床症状を呈した。鼻咽頭スワブあるいは化膿性の鼻汁材料を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

#### ドイツ

Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB CEMO 認定研究所) による検査結果

#### 馬伝染性子宮炎 (CEM)

10施設11頭の非サラブレッド種(5頭の種牡馬と6頭の繁殖牝馬)において、生殖器スワブを用いた PCR 検査および *Taylorella equigenitalis* の菌分離により CEM が確認された。

#### ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1)

EHV-1に関連する疾病が5施設において5例確認された。流産1例を含むこれらの症例は子宮分泌物と肺穿刺吸引物を用いた PCR 検査によって診断がなされた。虚弱で生存不能であった子馬の1例では肺穿刺吸引物を用いた PCR 検査によって診断がなされた。発熱と運動失調を呈した1例では鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査により診断がなされ、EHV-1の非神経病原性変位株であった。臨床症状のなかった2例は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされ、どちらも EHV-1の非神経病原性株であった。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 感染による呼吸器疾患が、鼻スワブを用いた PCR 検査により 5 施設 5 頭で確認された。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

馬ウイルス性動脈炎 (EVA) が 1 頭の非サラブレッド種の種牡馬において確認され、精液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。それ以上の詳細は不明である。

サルモネラ症

4 歳の去勢馬においてサルモネラ症が確認され、糞便材料を用いた細菌培養と PCR 検査によって確定診断がなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

異なる 5 施設の 7 頭において腺疫が確認された。全ての症例において腺疫が疑われたが、臨床症状は認められなかった。4 例は鼻スワブを用いた細菌培養および PCR 検査により、2 例は膿瘍からのスワブを用いた細菌培養および PCR 検査により、さらに 1 例では喉嚢洗浄液を用いた細菌培養および PCR 検査によって診断がなされた。

アナプラズマ症 (*Anaplasma phagocytophilum*)

アナプラズマ症の 1 例が確認され、EDTA 全血を用いた PCR 検査によって診断がなされた。

香港

報告事項なし

アイルランド共和国

報告未着

イタリア

報告未着

日本

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による生後直死

2014 年 5 月 1 日、ワクチン未接種のサラブレッド種において EHV-1 による生後直死が確認された。北海道日高家畜保健衛生所によるウイルス分離によって確定診断がなされた。

破傷風

2014年4月3日、ワクチン未接種のサラブレッド種において破傷風が1例確認され、安楽死処分となった。北海道日高家畜保健衛生所によって臨床診断がなされた。

#### ニュージーランド

報告事項なし

#### シンガポール

報告事項なし

#### 南アフリカ

報告事項なし。

#### 韓国

報告事項なし

#### スペイン

報告未着

#### スウェーデン

報告未着

#### スイス

アナプラズマ症 (*Anaplasma phagocytophilum*)

この四半期の4月および6月にアナプラズマ症の異なる2例が報告され、菌分離によって確定診断がなされた。

#### サルモネラ症

2014年5月25日にサルモネラ症の1例が報告され、菌分離によって確定診断がなされた。

#### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

この四半期の4月および5月に腺疫の発生が2件3頭の馬において確認され、菌分離によって確定診断がなされた。

#### トルコ

報告未着

## アラブ首長国連邦 (UAE)

ピロプラズマ病 (*Theileria equi* および *Babesia caballi*)

UAE においてピロプラズマ病は風土病であり、定期的に臨床例が報告されている。確定診断はドバイ中央獣医学研究所による血清学的検査および病原体分離によってなされている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2013年12月28日に始まった腺疫の発生は、現在では終息したものと考えられている。全体で9施設77頭の馬が感染した。しかしながら、米国からの輸入における検疫においてさらに2例が摘発された。ドバイ中央獣医学研究所による血清学的検査および細菌分離によって確定診断がなされた。

## イギリス

イギリスにおける症例と発生は、既に中間報告書により公表されているのでそれらを参照のこと。

- ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report1\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report6\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report13\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report13_april14.html)

- 腺疫 (*Streptococcus equi*)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report1\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_april14.html)

- ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report8\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_may14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_may14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report13\\_may14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report13_may14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report1\\_june14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_june14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report2\\_june14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_june14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report8\\_june14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_june14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report9\\_june14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report9_june14.html)

- ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report8\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report11\\_april14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report11_april14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report2\\_may14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_may14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_may14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_may14.html)

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report6\\_may14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_may14.html)

- ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

[http://www.aht.org.uk/icc/Interim\\_Report5\\_june14.html](http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_june14.html)

## アメリカ合衆国

### アデノウイルス感染症

アデノウイルス感染症の1例が子馬において報告された。詳細は不明である。

### クロストリジウム腸炎

*Clostridium difficile* 毒素 A 型 (2 例) および *C. difficile* 毒素 B 型 (2 例) が関連した腸炎が報告された。また、8 頭の子馬において *C. perfringens* A 型によるエンテロトキセミアが確認された。

### 馬伝染性貧血 (EIA)

6 月下旬、ワイオミング州にある施設において EIA が確認された。感染馬は安楽死処分となった。感染が認められた施設および隣接した施設における他の全てのウマ科動物で実施された最初の検査において更なる症例は摘発されなかった。

### 東部ウマ脳脊髄炎 (EEE)

第 2 四半期の間に、合計 13 頭の馬において EEE が確認された。12 例はフロリダ州、1 例はジョージア州において確認された。

### ウマヘルペスウイルス (EHV)

アメリカにおける馬科動物の集団では、現在も引き続き EHV-1 および EHV-4 が蔓延しているという血清学的証拠がある。EHV による流産の発生は合計で 7 例認められており、そのすべてはケンタッキー州での発生であった。2014 年第 2 四半期は EHV-1 による神経疾患の発生が多く、ウィスコンシン州 (1 例)、ヴァージニア州 (1 例)、ノースダコタ州 (1 例)、ペンシルヴァニア州 (2 例)、カンザス州 (1 例)、サウスダコタ州 (1 例)、コロラド州 (2 例) およびマサチューセッツ州 (1 例) の施設において確認されている。大多数の症例は、EHV-1 の非神経病原性株 (A2254 遺伝子型) に関連するものであった。クォーターホースでは主にバレルレース競技 (訳注: ロデオで行われる競技の一種) でウイルスに暴露したことが関連する症例が多く含まれている。

ウマヘルペスウイルス-3 (EHV-3) による馬瘡疹

ケンタッキー州の2頭の馬において EHV-3 感染症が確認された。

ウマヘルペスウイルス-2 (EHV-2) およびウマヘルペスウイルス-5 (EHV-5)

2014 年第 2 四半期の間に EHV-2 (ケンタッキー州 6 例およびウィスコンシン州 1 例) および EHV-5 (ケンタッキー州 1 例) 感染症の限定的な発生が確認された。

馬インフルエンザ (EI)

馬インフルエンザはアメリカにおいて風土病であり、散発的な発生が起こっているが、全てが報告されているわけではない。2014 年第 2 四半期の間にテキサス州での発生が確認されている

ピロプラズマ病 (EP)

国内の EP 発生状況は、米国農務省動植物衛生検査局獣医学部門 (USDA-APHIS-VS) によって調査が続けられている。*Theileria equi* 感染症の更なる症例がカリフォルニア州、フロリダ州およびテキサス州で確認された。全ての馬は、以前にメキシコから合法的あるいは違法に輸入され、特に非認定競走に参加した、リスクの高いクォーターホース競走馬の集団に含まれていた。カリフォルニア州では、草競馬 (bushtrack) の施設において EP と馬伝染性貧血 (EIA) 陽性の馬が 1 例確認され、さらに 2 番目の施設において 2 頭の EP 陽性馬と 1 頭の陽性の種馬が確認された。経歴調査によるとメキシコから導入された馬であった。フロリダ州では 3 頭の EP 陽性馬が報告され、そのすべては輸入馬であった。テキサス州では草競馬において 2 頭の感染が確認され、それらはおそらくメキシコから違法に輸入された馬であった。

ノカルジア症による胎盤炎および流産

アミコラトプシス属菌 (*Amycolatopsis spp*) の感染に関連した流産の 1 症例がケンタッキー州において確認された。

ロドコッカス・エクイ感染症

*Rhodococcus equi* による肺炎はアメリカの馬集団において風土病的に発生している。疾病が過少に報告されているが、ケンタッキー州において発生があったことが記録されている。

サルモネラ症

サルモネラ症の限定的な発生が報告されており、7 例が B 群、2 例が C1 群と関連したものであった。

#### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫はアメリカにおいて風土病であり、少なくとも 15 州において症例および発生が報告されている。感染した施設および馬の数は、それぞれ 38 施設および 66 頭と報告されている。コネチカット州、ケンタッキー州、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州およびニューヨーク州では、7 施設において複数頭の発生が確認された。

#### 水胞性口炎 (VS)

2014 年 5 月 23 日、テキサス州南東部において水胞性口炎の発生が確認された。キニー郡の 1 施設 2 頭で、感染ウイルスはニュージャージー型と診断された。2014 第 2 四半期の終わりまでに、合計 7 施設で感染が確認され、その全てはテキサス州であった。現在までの症例の全ては、テキサス州内にある 4 群の施設で飼養されている馬である。(※2014 年 8 月末時点で感染地域および頭数はさらに拡大している)

#### ウエストナイル脳炎 (WNE)

2014 年の現在までに WNE の発生が 1 例報告されている。発生はアラバマ州であった。

#### ベネズエラ

報告未着